臺中警察署	—	一	—	一	三	七	—
大屯郡	—	一	—	二	三	一四	—
豐原郡	—	一	—	一	四	一一	—
東勢郡 平地	—	一	—	一	二	七	—
東勢郡 蕃地	—	—	—	五	一〇	—	三四
大甲郡	—	一	一	二	四	三	—
彰化郡	—	一	一	三	八	三〇	—
員林郡	—	一	—	二	五	一七	—
北斗郡	—	一	一	二	四	一七	—
南投郡	—	一	一	二	四	一五	—
新高郡 平地	—	一	一	二	二	九	—
新高郡 蕃地	—	—	一	四	九	—	二八
能高郡 平地	—	一	—	一	二	八	—
能高郡 蕃地	—	—	一	七	一九	—	四二
竹山郡	—	一	—	一	三	二	—
合計 平地	一	一二	五	二〇	四四	一六八	—
合計 蕃地	—	—	二	一六	三八	—	一〇四
合計 計	一	一二	七	三六	八二	一六八	一〇四

第二節　司法即決

（一）犯罪概況

昭和六年中に於ける犯罪總件數は法院送致に於て刑法犯四千二十六件、特別法犯五百九十四件計四千六百二十件、即決事件に於て刑法犯七百五件、特別法犯二萬七千八百十三件計二萬八千五百十八件なり、而して刑法犯中最も多きは傷害にして七百九十件に上り詐欺六百六十三件、竊盜六百三十五件、横領二百八十三件等は其の主なるものなり、又即決事件中最も多きを臺灣違警例違反の一

萬一千六百六十七件とし荷車、牛車、馬車取締規則違反の二千九百六十六件、自動車規則違反の二千三百十件、保甲條例施行細則違反の一千百五十四件戸口規則違反の一千百三十件等之に亞ぐ尙之を前年に比較するに法院送致事件に於ては百六十件を減少せるも卽決事件に在りては四千八百九件を增加せり。

（二）犯罪の趨勢　州下に於ける犯罪の狀況を概觀するに其の地勢に應じ各々特種のものあるを認め得、假に東勢、南投、新高、能高、竹山各郡を山手地方とし此の地域に於ける犯罪の狀況を觀るに詐欺、文書僞造等智能的犯罪少く其の手段方法亦頗る簡單幼稚を免かれず件數に於て最も多きを占るは森林令違反にして蓋し地勢の關係に因るものなり次で賭博、姦通、傷害、竊盜の順序とし此の原因と認むべきものは住民の一般が諸般の社會現象に刺戟を受くること少く住民

の感情亦比較的單純にして本島特有の傳統的陋習に支配せらるゝに由るものなり、而して之が爲時に僅かの反感に憤怒し一家鏖殺を企つるが如き又は爭論の果相手を撲殺するが如き或は情婦と媾曳せんが爲本夫を毒殺せんとするが如き常識的判斷を許さゞるが如き事件を惹起する事なしとせず。

次に臺中市を中心とする豐原、大甲、彰化、員林、北斗各郡に於ける犯罪を觀るに其の件數の多きこと又其の手段方法の複雜多岐に亘れる點に於て刑事警察上山手各郡に比し格段の留意を要すべきものあり卽ち詐欺、橫領、文書僞造等智能的犯罪比較的多く、竊盜罪の如き多くは常習的にして而も全島に關係を有するもの頗る多し。

更に北斗、彰化、大甲の三郡に跨る海岸地方の特異犯罪として關稅法違反、密輸入に係る阿片令違反等あるも這は鹿港、梧棲の二港に於て

すら夏季無風時に稀に船舶の往來する程度のものなるを以て今日迄密航者を出したることは殆ど之を聞かざる處にして密輸入犯と雖昭和六年中に於て僅々二三件に過ぎず然れ共之が防止の爲には所轄稅關支所と連絡協調を保ち警戒査察を嚴にし以て犯行の機會なからしめつゝあり。

以上は地方的の犯罪として比較的特異とすべきものを記述したるに過ぎずして此等以外に猶幾多種類の犯罪あるは言を俟たざる處なり。

由來本島人は各種犯罪中殺人、放火は極惡非道のものとせる傳統的精神を有するものゝ如く幸にして放火犯は極めて稀にして州下を通じ十件以內に止まるも殺人犯に至りては最近逐年增加の狀勢にあるを遺憾とす而して近時の如く財界極度の不況時に在りては財

產に關する犯罪卽ち窃盜、詐欺、强盜等相當增加の傾向あり而も當州は文化の進展に魁し之等犯罪の手段方法等に至りても頗る巧妙新奇錯雜を極め、又言動奇矯過激に流れ或は徒に民衆を煽動し、官憲に抗爭する等治安警察法、治安維持法、出版法等の違反者亦逐年多きを加へつゝあり、而して文化の進展、各種交通機關の發達に伴ひ之等犯罪の搜査、檢擧には相當困難を感じつゝある狀態なり。

（三）指紋及寫眞 大正十一年指紋及寫眞撮影規程を發布し刑法犯及特別法犯にして將來刑事警察上注意を要すへき者の指紋及寫眞の蒐集に努めたる結果昭和七年六月末日現在に於て指紋一九、二八五枚、寫眞九、一八六六枚に達し之に依り犯人及前科者の發見に良好なる成績を收めつゝあり。

第十一章　衞生

由來本島人は衞生觀念に乏しく住宅の大部分は周圍に竹藪を繞らし且下水の設備なく蚊族の棲息に任せ家屋は竹材又は土塊造にして採光、換氣の設備充分ならず而も屋內に便器を置きて便所を設けず屋外には家畜、家禽を放飼し、掃除を怠りて塵芥堆く頗る不潔を極め又日常の用水に就ても無關心にして河川に汚物を投棄し水牛、鵞鳥を放飼し其の下流に於ては之を飲料水とし、食器、飲食物を洗滌して顧る所なし更に又入浴の慣習なく手鼻、吐痰、手拭共用等の非衞生的惡習あり、如斯狀態に因り當州は往時惡疾の流行を見地方病たる「マラリア」は州下各地に猖獗を極め爲に人口增加せず產業亦振はず全島屈指の不健康地と目されたるも衞生施設の獎勵と衞生思想の普及とに努めたる結果

漸次舊態を脫し今や全く面目を一新し全島唯一の健康地と稱せらるゝに至れり。

第一節　醫療機關

當州下には普通醫院として官立臺中醫院あり內容充實す、特殊醫院としては藝娼妓、婦酌の檢診治療に當る州立婦人病院一、臺中市立傳染病院一あり此の他隔離病舍四箇所、入院設備を有する私立醫院二十七あり、而して醫師の分布は人口稠密なる市街地に厚く、邊陬地方に薄く中には全く醫療機關を有せざる地方あり保健衞生上遺憾なるを以て手當を支給する公醫を配置して其の欠陷を補へり。現在開業醫二百四十二、醫生七十三、齒科醫師三十一、藥劑師十二、產婆百九十七、藥種商六百八十七、公醫配置數三十六箇所(外に蕃地六)を算し醫療機關相當備はれり。

第二節 地方病

州下に於ける地方病として擧ぐるものにマラリア及トラホームありマラリアに對しては大正二年之が防遏規則を發布し同病毒濃厚と認むべき地方の住民に對し强制的に採血、服藥及治療を行ひ一面本病を媒介する蚊族發生の池沼、藪澤、濕地を整理し、草木の伐採、石油撒布を勵行し、上水・下水の設備を完備する等鋭意防遏に努めたる結果近來著しく患者數を減少することを得たり現在防遏施行地二十一箇所、之が事務所十三箇所あり、又トラホームに對しては昭和四年度より巡回治療を開始し病毒濃厚なる地方より漸次施行中にして之亦成績極めて良好なり。

第三節 傳染病

昭和六年中傳染病の發生は赤痢二、腸チフス七十二、パラチフス二、猩紅熱一、ヂフテリア四十三、流行性腦脊髓膜炎一計百二十一名にして前年に比し六十二名の減少を見逐年成績良好に向ひつゝあるも腸チフス、ヂフテリアの如きは毎年四季を通じて連續的に發生し終息する處を知らざる狀態にあるを以て極力之が豫防々遏に努めつゝあり。

第四節 上水、下水

(一)**上水** 飲料水は都會地を除き一般に井戸の設備少く甚しきは河水又は埤圳水を其の儘飲料に供するものあり衛生上寒心に堪へざる所なるを以て之が改善を指導奬勵すると共に州費より市街庄に對

し工費の全額乃至三分の一を補助し大正十年以來水道一、簡易水道八、給水井戸四百五十八を完成せしめたり、昭和六年末に於ける既設水道臺中市の外八箇所、簡易水道八箇所あり。

(二)下水　州下重なる市街庄に對し州費の半額又は三分の一を補助して之が施設を爲さしめ公衆衛生上殊にマラリア防遏上多大の効果を收め尙引續き緊要の箇所より逐次施設せしむる豫定なり、而して昭和七年三月末迄に施行したる下水工事は延長五七〇粁〇五にして總工費八十七萬三千四百七十六圓に及べり。

第五節　保健調査

保健調査は保健衛生上の欠陥を探究し適當なる衛生施設を講ずる資料を得むが爲め大正十一年度以來每年之を施行し昭和六年度迄に回

を重ぬること十二回、調査戸數七千九百六十三戸、人口四萬四千百六十八人に及び豫期の材料を蒐集し得たる爲本事業の實地調査は昭和六年度を以て完了し昭和七年度に於ては第十二回調査書を作製し昭和八年度に於て本調査の總括的統計表及分離的統計表を調製し健康地域と不健康地域とを彼我對照し以て根本對策を講じ必要なる衛生施設を爲さむとす。

第六節　阿片

阿片吸食特許者は死亡廢烟等に因り年々其の數を減じ昭和五年末には其の數五千三十三名となり昭和六年中の死亡廢烟轉出等四百十名、同年末現在四千七百二十八名にして漸次阿片漸禁主義の理想に近づきつゝあり而して矯正命令者の治療は昭和五年一月臺北更生院に於

て開始し同年七月には臺中醫院に於ても亦之が治療を開始し昭和六年末迄に於ける治療完了者八百九十一名に上り、治療日數に於ても早きは一週間にして全治するを見、成績極めて良好なり、矯正命令者にして昭和六年末現在未治療者二千九百六十一名なり。

第十二章 理蕃

第一節 蕃人の分布

當州の蕃人は「タイヤル」、「ブヌン」、「ツォウ」の三種族にして「タイヤル」族は東勢郡及能高郡埔里を東方に萬大に連ねたる線以北に、「ブヌン」族は能高郡干卓萬以南竝に新高郡陳有蘭溪以東に、又「ツォウ」族は陳有蘭溪左岸に蟠居す。而して州下蕃地は北は桃山次高山より南は新高山を界に中央山脈の西南一帶に亘り、高峰重疊し山岳嶮しくして溪谷深く、蕃人は斯かる幽谷急斜の間に僅に地を求めて居を構へ今猶原始的生活を營む者多し。

第二節 蕃社戸口

「タイヤル」族は十一部族三十八社、「ブヌン」族は六部族四十七社、「ツオウ」族は一部族一社なり。昭和六年末に於ける戸數二、四四八戸、人口一五、二三四人にして前年末に比し戸數に於て八十七戸、口人に於て二百六十人の減少を示せるは能高郡「タウツア」蕃の保護襲擊事件に基因するもの多し、各郡種族別戸數、人口左の如し。

郡別	種族	戸數	人口 男	人口 女	人口 計
東勢郡	タイヤル族	三〇五	六七三	七一六	一、三八九
能高郡	同	一、二五一	二、五一七	二、五九六	五、一一三
同	ブヌン族	二五四	一、一七六	一、〇一五	二、一九一
新高郡	同	六一九	三、二七九	三、一五四	六、四三三
同	ツオウ族	一九	六二	四六	一〇八
計		二、四四八	七、七〇七	七、五二七	一五、二三四

第三節　蕃地警備

(一)警備　蕃地の警備機關としては新高郡楠子脚萬及能高郡霧社に警察課分室を設置する外東勢郡に三十四箇所、新高郡に二十八箇所、能高郡に四十一箇所の警察官吏駐在所を置き警部、警部補、巡査、警手を配置して日夜嚴重警戒に任ず、而して上記駐在所中四十三箇所は蕃社を受け持ち蕃人の指導操縱に當り併せて警備を兼ね他の六十箇所は蕃地樞要の地に配置して專ら警備に當り以て蕃地一帶の保安を維持しつゝあり。

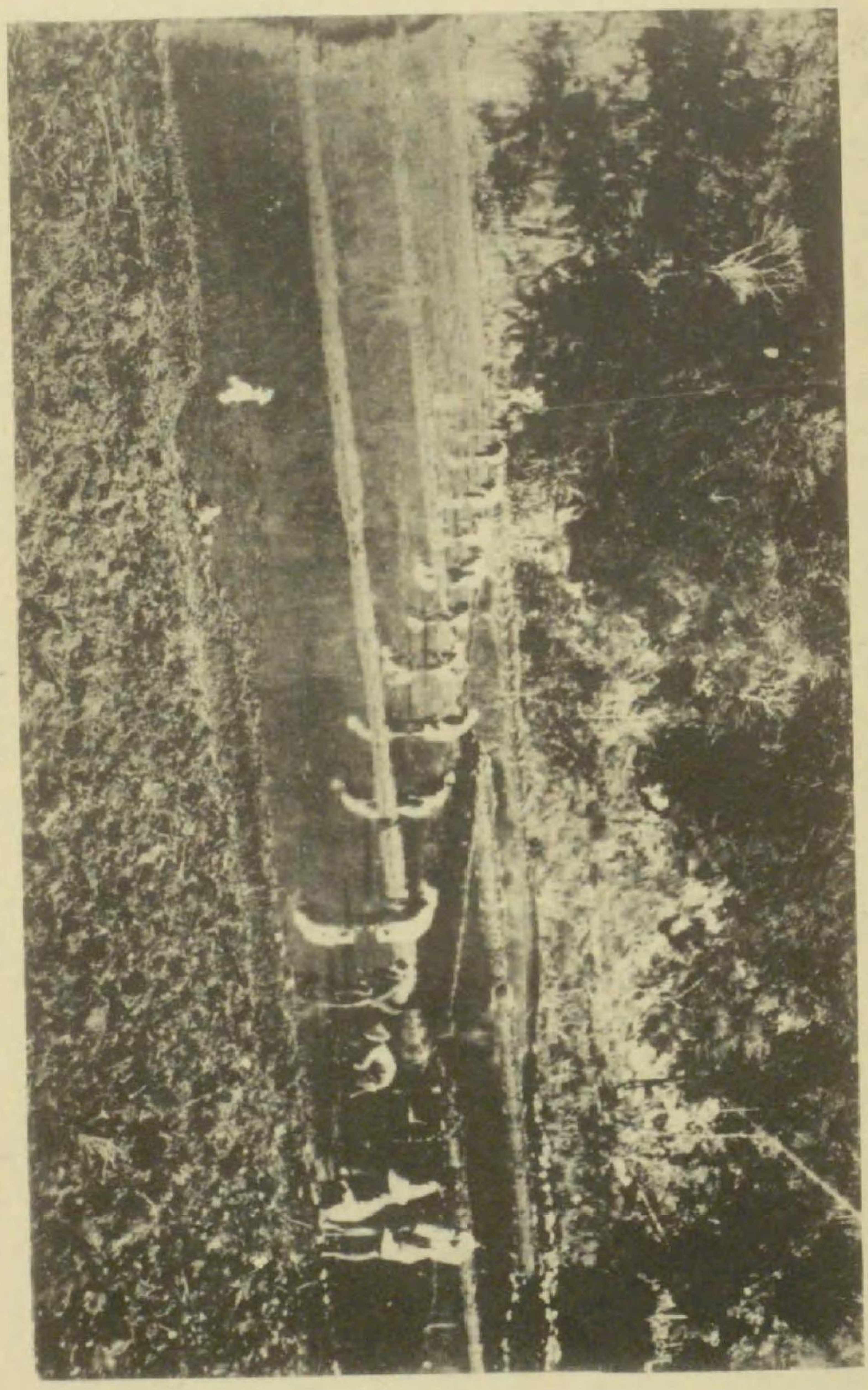
(二)道路交通　州下蕃地の主要道路としては新高郡に八通關越道路あり、水裡坑より八通關を越へ花蓮港廳玉里に至り、能高郡に能高越道路及「ピヤナン」越道路あり前者は霧社より能高山鞍部を經て花蓮

港廳初音に越すべく後者は霧社より東勢郡平岩山駐在所、「ピヤナン」鞍部を經て臺北州羅東郡に至る、尙「ピヤナン」道路沿道「サラマオ」社より大甲溪に浴ふて下り東勢庄に達する大甲溪沿岸道路あり。

其の他東勢郡には北勢蕃警備道路、新高郡には丹大線、郡大線並同郡「カ」社より能高郡萬大に通ずる新設道路、能高郡には「バイバラ」線、卓社線、武界線、萬大線、「トロック」線、立鷹線等ありて各駐在所を連絡し警備交通を保持す更に又東勢郡土牛より蕃地八仙山に通ずる營林所鐵道、新高郡水裡坑、東埔間及能高郡埔里、眉溪間に於ける軌道は何れも一般貨客の運輸に便す。

第四節　蕃人撫育

(一) 蕃人定住の奬勵　由來蕃人は屍體を屋內寢台下に埋葬する慣習



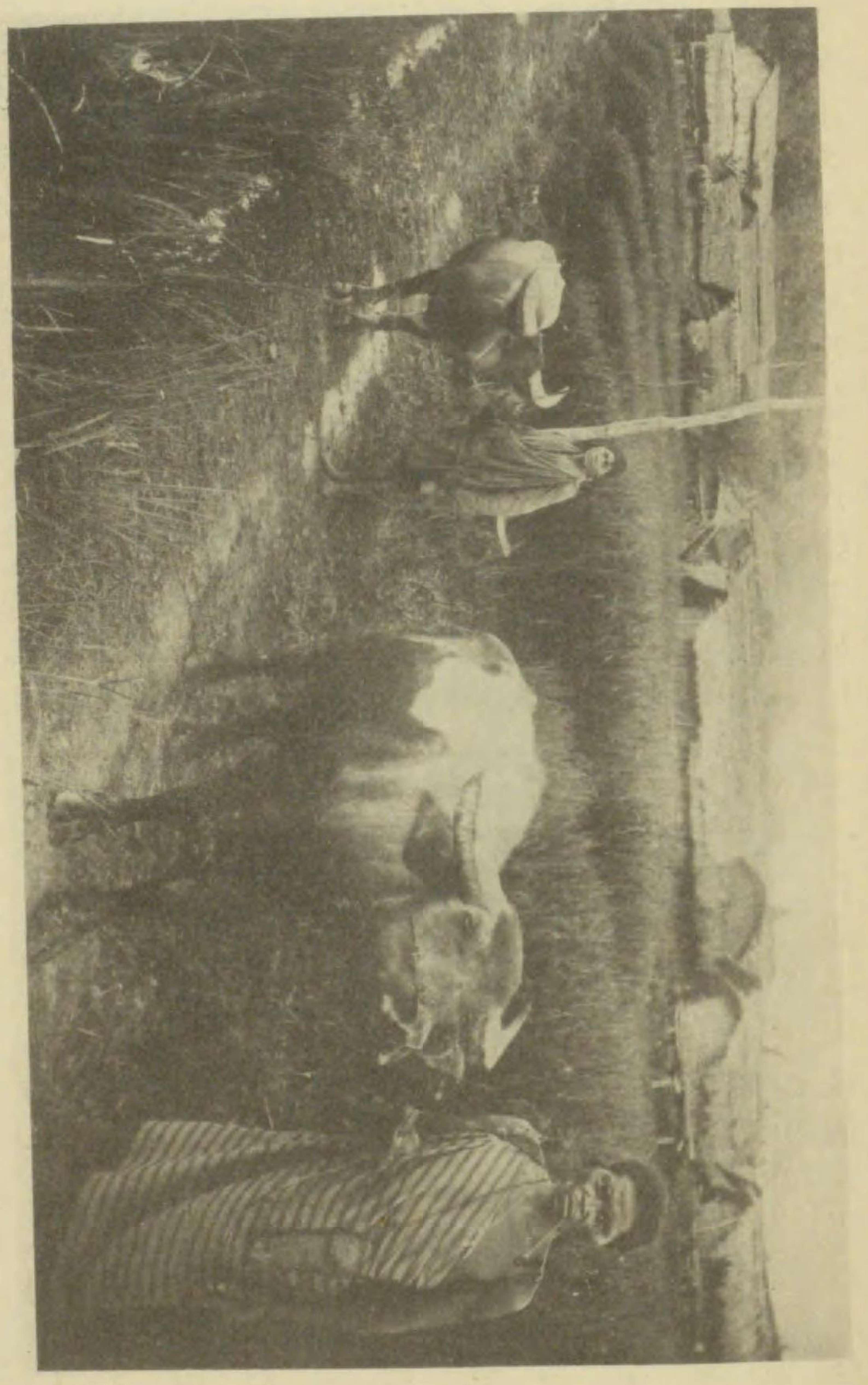
蕃人の水田耕作狀況

あり一旦之を埋むるときは家屋を他に移轉し又開墾適地を逐ふて屢住所を移轉したるものなるが、彼等の生活を安定せしめんには先づ住居を一定せしむるの必要あり仍て定地耕適地に移住方を奬勵し既に十數箇所の水田適地に移住を敢行せり而して之等は何れも家屋を改良し、生活の程度を高め又中には道路に沿ふて蕃屋軒を竝べ整然たる部落を形成せるもの相當あり特に東勢郡埋伏坪社南勢社、新高郡「ナマカバン」社、能高郡「バイバラ」社、過坑、干卓萬社、武界社の如きは當に蕃人住居に一劃期を示せるものなり。

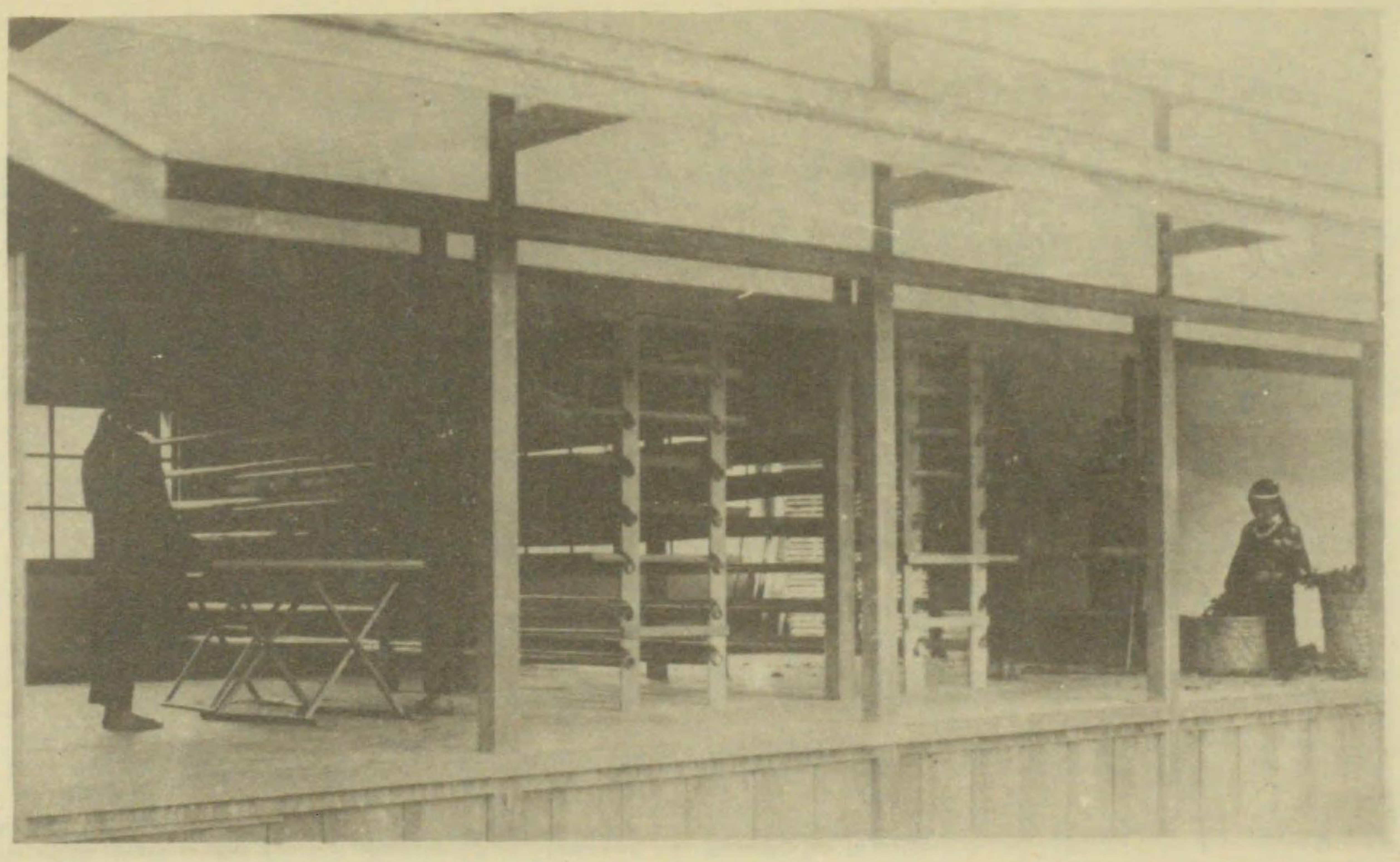
(二)定地耕の奬勵　蕃人は元山地を輪耕して粟、稗、甘藷等を植付けたるものにして廣大なる面積を開墾し尠からざる勞力を費して而も收穫極めて少く僅に原始的生活を續け來りたるものなるが定地耕の奬勵に依り土地、勞力を經濟化し、米を主要食たらしむべく稲作の

指導奬勵に努めたる結果蕃人亦大に悟る處あり競ふて水田作に從事し開墾地年と共に增加し將來益擴張を見んとする狀況に在り。昭和六年末水田甲數二七六甲餘に上り玄米三、一四〇石の收穫を得て穀倉に充滿し之が蕃情に及ぼす好果誠に至大なるものあるに至れり。

(三)畜產奬勵 蕃人は古來狩獵を好み獲物の多きを以て之れを誇とし猛獸を射殺して其の武勇を誇張し殺伐の氣各社に漲り、農耕を賤視して之を嫌ふの風ありしが近來生活の向上と米食の營養價値を自覺し來りたるとに因り農耕に精勵し狩獵に代ふるに畜產を以てし今や各地に畜牛、養豚普及し、畜種を改良せんとして優良種の種付を希望するもの或は由來牝豚を飼養せざる慣習ありし彼等が最近之を求めて增殖を計るが如き當に蕃人の狩獵時代は過ぎて畜產時代



蕃人の畜養狀況



蕃人の養蠶指導所

の出現を見んとする現況に在り昭和六年末現在水牛九二一頭、黄牛八〇九頭、印度牛二六頭、雜種牛三三頭、豚二、九八七頭を算せり。

(四)養蠶指導　蕃地には至る處野桑繁茂し養蠶飼料に適す而して蠶業は短期間に多額の收益を擧ぐるを得蕃地農家の副業として最も適當のものなるを以て之が指導奬勵の結果彼等も漸く其の利を悟り進んで飼養せんとする狀勢にありしが近年財界の不況に伴ひ絲價慘落したる爲收支相償はず養蠶熱ために頓挫し之が普及奬勵に一大暗影を投ぜるは寔に遺憾とする所なり、而して昭和六年中に於ける掃立枚數三一九枚、收繭量四〇九瓩、價格百九十七圓六十三錢を得たり。由來蕃地の蠶業は蕃人をして蠶に親しむの風習を養ふを主眼とするを以て收繭價格の如何に關係なく蕃地適當の箇所二十二箇所に養蠶指導所を設置し一面桑園の擴張、桑種の改良を計り益々

指導奬勵に努力を拂ひつゝあり。

（五）**蕃童教育** 能高郡霧社には臺灣教育令に依る州立公學校を設置しある外蕃社受持の警察官吏駐在所三十一個所に教育所を附置し修業年限四箇年の初等教育を施し國民性の涵養に努め更に生活に必要なる智識技能を授く、而して之が卒業生は何れも風習大に改まり其の効果甚大なるものあるを感ぜらる。

霧社公學校學年末兒童數男五三、女六〇計一一三名、教育所學年末現在兒童數男七二七、女六五一計一三七八名にして出席歩合亦極めて良好なり、尚此の外師範學校一、中學校一、農林學校一、農林補習學校四計七名の上級學校及四名の小學校共學者あり何れも一般學生に伍して相當の成績を擧げ居れり。

（六）**一般蕃人の教化** 蕃社受持駐在所を一團とし家長會、婦人會、青年

團等の自助機關を組織し毎月又は隔月開會して之を指導し尚國語練習會を開催して國語の普及を計り併せて日常の作法を授け更に「ラヂオ」、蓄音機等を配備し、巡回活動寫眞を映寫して居ながら各地の實況を見聞せしめ又時に平地都市の文物を觀光せしむる等諸般の施設を實行し以て彼等の理解と自覺の促進に力めつゝあり効果大なるを認めらる。

（七）**風俗習慣の改善** 刺墨、缺齒、穿耳等を改め、男子の斷髮を勵行し、蕃衣を改良し、浴場、便所を設け、共同墓地を設置し更に蕃屋を改良して通風、採光、清潔を保持し又迷信を打破し、祭祀、占筮、私刑制裁の舊慣を革むる等風習の改善に努めたる結果缺齒を補ふに金義齒を以てし鬪爭紛議に當りても直接行動に出づること少く專ら警察官の處置に俟つ等之が齎す効果誠に顯著なるものあり。

（八）**醫療** 蕃人は由來疾病を以て神罰なりとし之を治するに祈禱符呪の法に依り或は草根木皮等を用ひたりしが一度醫療を施すや其の效果の迅速且確實なるに驚き最近に至りては內科諸症は勿論外科的手術又は婦人科治療をすら乞ふ者あるに至れり、而して之が醫療機關たる公醫診療所六個所、警察職員による療養所三十三箇所を設置して施療に當り極めて良好なる成績を擧げ居れり。

（九）**交易** 蕃人は元物々交換を爲し居たるものにして往時奸商の欺瞞行爲に依り屢蕃情を不穩ならしめたることあり仍て之が取締を嚴にし警察協會をして交易事業を取扱はしめ蕃人と一般人との自由交易は之を禁じ居れるが近時蕃人の經濟的觀念著しく進歩し來りたるに鑑み供給品は各社の文化に適應したる生活必需品を以てし更に將來は進んで蕃人の購買利用組合として活用せしむる理想の

下に之を助長しつゝあり。

第五節　蕃地內事業

（一）**伐木** 東勢郡八仙山に總督府營林所經營の伐木事業あり良質の檜材を多量に搬出す又新高郡砂里仙溪に秋田木材株式會社の經營に係る製材事業あり之亦極めて優良なる檜材を年々數萬石搬出す其の他小規模なる伐木又は副產物の採取は到る處に行はれ千古斧鉞を入れざる寶庫は漸次開發せられつゝあり然れども近時財界の不況に伴ひ民間事業は甚不振の狀況に在り。

（二）**製腦** 製腦は臺灣製腦株式會社の經營にして蕃地のみならず大屯、南投、竹山の各郡山地に於ても亦產出す仍て之を合し州下に於ける現況を記述せんに許可腦灶數一、四五一灶、之が從業員三八、五九三名

に及び其の生産高は樟腦四四四、八二九瓩、樟腦油一、〇二七、〇三二瓩、芳樟油一、二一一、八六〇瓩にして全島各州廳中首位を占む。

第十三章　財政

昭和七年度に於ける州歳入豫算額は金三、〇一三、〇三一圓にして前年度に比し金八七、九二五圓を減ぜり、大正十四年度以降の州歳入豫算額竝に國稅調定額及州歳出豫算額を擧ぐれは次の如し。

並に國勢調査費及特別會計繰入額を加へれば尨大の額なり。
度に比し金八七,九〇二,五〇〇圓を減ず。大正十四年度以降の社會人事費額
昭和七年度に於ける社會人事費は金三,〇一三,〇三一圓にして前年

第十三章　貯　蓄

州歲入

州税

科目＼區分	大正十四年度 豫算額	大正十四年度 歩合	大正十五年度 豫算額	大正十五年度 歩合	昭和二年度 豫算額	昭和二年度 歩合	昭和三年度 豫算額	昭和三年度 歩合	昭和四年度 豫算額	昭和四年度 歩合
地租附加税	五三七,四七〇	三一,〇一五	五四五,三一六	二九,九〇〇	六八七,七三三	三四,一二九	六九一,一五八	三三,九六五	六九七,三二八	三〇,七八五
所得税附加税	二〇,四六一	一,一八一	三〇,一二〇	一,六五二	二六,一〇〇	一,二九五	三,〇〇〇	一四三	三七,五〇〇	一,六五五
戸税	二六〇,〇〇〇	一五,〇〇三	二六〇,〇〇〇	一四,二五六	二六〇,〇〇〇	一二,九〇三	二六〇,〇〇〇	一二,四〇〇	三三一,八九四	一四,六三九
營業税	四二一,二二一	二四,三〇七	四七一,三三三	二五,八四三	五〇一,二六八	二四,八七五	五六九,三〇三	二七,一五三	五五三,〇八七	二四,四一三
雜種税	四九三,七七七	二八,四九四	五一七,〇一八	二八,三四九	五四〇,〇〇九	二六,七九八	五七三,二二〇	二七,三三九	六四五,六八六	二八,五〇八
計	一,七三二,九二九	一〇〇,〇〇〇	一,八二三,七七六	一〇〇,〇〇〇	二,〇一五,一〇九	一〇〇,〇〇〇	二,〇九六,六八一	一〇〇,〇〇〇	二,二六五,四九五	一〇〇,〇〇〇

州歲入

科目＼區分	大正十四年度 豫算額	大正十四年度 歩合	大正十五年度 豫算額	大正十五年度 歩合	昭和二年度 豫算額	昭和二年度 歩合	昭和三年度 豫算額	昭和三年度 歩合	昭和四年度 豫算額	昭和四年度 歩合
税收入	一,七三二,九二九	七〇,九九五	一,八二三,七七六	七〇,八二六	二,〇一五,一九〇	七一,二八一	二,一二九,六八一	七四,三一六	二,二六五,四九五	六八,七二六
税外收入	七〇七,九八八	二九,〇〇五	七五一,一三一	二九,一七四	八一一,九〇三	二八,七一九	七三六,〇〇五	二五,六八四	一,〇三〇,九六三	三一,二七四
計	二,四四〇,九一七	一〇〇,〇〇〇	二,五七四,九〇七	一〇〇,〇〇〇	二,八二七,〇九三	一〇〇,〇〇〇	二,八六五,六八六	一〇〇,〇〇〇	三,二九六,四五八	一〇〇,〇〇〇

國税調定額

科目＼區分	大正十四年度	大正十五年度	昭和二年度	昭和三年度	昭和四年度
地租	一,三六〇,〇八一	一,三七五,二〇九	一,三八六,四三六	一,三九七,〇三四	一,三九八,一三五
砂糖消費税	九三九,五三六	七九八,八八七	六六八,九三二	九七四,二六五	七九六,七〇九
酒精税	六五二,五〇八	八三四,六八一	三四〇,二七四	八六九,三六〇	七六六,一六九
鑛區税	一,五五七	一,五七六	九五二	四八〇	九六〇
織物消費税	二七,〇五四	四,九六九	—	二九	—
所得税	四三四,九三二	四四三,〇三七	八四八,〇二九	四七四,五四二	五九二,六二三
計	三,四一五,六六八	三,四五八,三五九	三,二四四,六二三	三,七一五,七一〇	三,五五四,五九六

備考　昭和七年度は見込額を示す

歲出

（當初豫算表に依る）

科目＼區分	大正十四年度 豫算額	大正十四年度 歩合	昭和元年度 豫算額	昭和元年度 歩合	昭和二年度 豫算額	昭和二年度 歩合	昭和三年度 豫算額	昭和三年度 歩合	昭和四年度 豫算額	昭和四年度 歩合
廳費	一九五,〇九〇	八·〇四	一九六·四三五	七·六三	二〇〇,五五五	七·〇〇	一七九,七二八	六·三〇	一九二,七八〇	六·二二
郡役所費	一八〇,八七〇	七·四九	一七六·六七一	六·八六	二〇二,〇六四	七·〇〇	一七六,二〇七	六·一〇	一八〇,一四六	五·八一
土木費	九三,四一〇	三·八二	一一四,〇七四	四·四三	二二一,三一三	七·〇〇	二一八,四五五	七·六〇	四二七,四一一	三·七九
教育費	一,二五六,八七六	五一·四八	一,三九九,五四二	五四·三五	一,四七二,九八〇	五三·六〇	一,四九三,四九八	五二·一〇	一,五九五,六〇〇	五一·四八
衞生費	三二〇,四二九	一三·一三	二七一,一九二	一〇·五三	二八九,〇〇一	一〇·〇〇	二六三,一四一	九·二〇	二四八,二〇一	八·〇〇
勸業費	一一三,七五二	四·六六	一六五,二四〇	六·四一	一七三,一四〇	六·〇〇	一八五,八四三	六·五〇	一六五,五九〇	五·五四
社會事業費	一九,五二一	〇·八〇	一八,一二一	〇·七〇	二三,五二一	〇,八〇	九六,五〇一	三·四〇	三三,五五一	一·〇八
州税取扱費	九四,一二四	三·八九	九七,四〇八	三·七八	一〇四,七〇三	三·七〇	一〇五,五三九	三·七〇	一〇八,五八六	三·五一

入

…年度 歩合	昭和二年度 豫算額	昭和二年度 歩合	昭和三年度 豫算額	昭和三年度 歩合	昭和四年度 豫算額	昭和四年度 歩合	昭和五年度 豫算額	昭和五年度 歩合	昭和六年度 豫算額	昭和六年度 歩合	昭和七年度 豫算額	昭和七年度 歩合
…〇,八二六	二,〇一五,一九〇	七一,二八一	二,一二九,六八一	七四,三一六	二,二六五,四九五	六八,七三六	二,三六一,四三七	七二,五八三	二,二二七,六〇九	七一,八三七	二,一七七,九九〇	七二,三四八
…九,一七四	八一一,九〇三	二八,七一九	七三六,〇〇五	二五,六八四	一,〇三〇,九六二	三一,二七四	八九二,〇三三	二七,四一七	八七三,三四七	二八,一六三	八三五,〇四一	二七,六五二
…〇,〇〇〇	二,八二七,〇九三	100,000	二,八六五,六八六	100,000	三,二九六,四五八	100,000	三,二五三,四七〇	100,000	三,一〇〇,九五六	100,000	三,〇一三,〇三一	100,000

税

…年度 歩合	昭和二年度 豫算額	昭和二年度 歩合	昭和三年度 豫算額	昭和三年度 歩合	昭和四年度 豫算額	昭和四年度 歩合	昭和五年度 豫算額	昭和五年度 歩合	昭和六年度 豫算額	昭和六年度 歩合	昭和七年度 豫算額	昭和七年度 歩合
…九,九〇〇	六八七,七三三	三四,一二九	六九一,一五八	三二,九六五	六九七,三二八	三〇,七八五	七〇五,八三〇	一九,八七九	六九三,八九八	三一,一四九	六九八,九六〇	三二,〇九一
…一,六五三	二六,一〇〇	一,二九五	三,〇〇〇	一四三	三七,五〇〇	一,六五五	四二,〇〇〇	一,七七八	二一,〇〇〇	九四三	二三,二〇〇	一,〇六五
…四,二五六	二六〇,〇〇〇	一二,九〇三	二六〇,〇〇〇	一二,四〇〇	三三一,八九四	一四,六三九	三三八,〇〇〇	一四,三三六	三三八,〇〇〇	一五,一七三	三三八,〇〇〇	一五,五一八
…五,八四三	五〇一,二六八	二四,八七五	五六九,三〇三	二七,一五三	五五三,〇八七	二四,四一三	五八一,八二一	二四,六三八	四九〇,九四五	二二,〇三九	四五七,五六六	二一,〇〇八
…八,三四九	五四〇,〇〇九	二六,七九八	五七三,二二〇	二七,三三九	六四五,六八六	二八,五〇八	六九三,七八六	二九,三六九	六八三,七六六	三〇,六九六	六六〇,二六四	三〇,三一八
…〇,〇〇〇	二,〇一五,一〇九	100,000	二,〇九六,六八一	100,000	二,二六五,四九五	100,000	二,三六二,四三七	100,000	二,二二七,六〇九	100,000	二,一七七,九九〇	100,000

額

…年度	昭和二年度	昭和三年度	昭和四年度	昭和五年度	昭和六年度	昭和七年度
…,二〇九	一,三八六,四三六	一,三九七,〇三四	一,三九八,一三五	一,四〇〇,一九〇	一,四〇〇,二七三	一,四〇二,二六八
…,八八七	六六八,九三二	九七四,二六五	七九六,七〇九	七四八,二七九	七七一,八三七	六八六,七一二
…,六八一	三四〇,二七四	八六九,三六〇	七六六,一六九	九八〇,四三二	九四四,二二六	五九四,七七七
…,五七六	九五二	四八〇	九六〇	四八〇	四八〇	四八〇
…,九六九	—	二九	—	—	—	—
…,〇三七	八四八,〇二九	四七四,五四二	五九二,六二三	五九四,五四九	五一八,〇九一	三二九,七七九
…,三五九	三,二四四,六二三	三,七一五,七一〇	三,五五四,五九六	三,七二三,九三〇	三,六三四,九〇七	三,〇一四,〇一六

出 （當初豫算表に依る）

…年度 歩合	昭和二年度 豫算額	昭和二年度 歩合	昭和三年度 豫算額	昭和三年度 歩合	昭和四年度 豫算額	昭和四年度 歩合	昭和五年度 豫算額	昭和五年度 歩合	昭和六年度 豫算額	昭和六年度 歩合	昭和七年度 豫算額	昭和七年度 歩合
…七・六三	二〇〇,五五五	七・〇〇	一七九,七二八	六・三〇	一九二,七八〇	六・二二	一九六,八四九	六・〇五	一九四,六〇〇	六・二八	一八八,九七九	六・二七
…六・八六	二〇二,〇六四	七・〇〇	一七六,二〇七	六・一〇	一八〇,一四六	五・八一	一七四,三三八	五・三六	一〇五,六八五	三・四一	一一〇,九九七	三・六八
…四・四三	二二一,三一二	七・〇〇	二一八,四五五	七・六〇	四二七,四一一	三・七九	五七一・八三六	一七・五八	五七九,八九四	一八・七一	三六六,五三四	一二・一六
…四・三五	一,四七二,九八〇	五三・六〇	一,四九三,四九八	五二・一〇	一,五九五,六〇〇	五一・四八	一,六二一,四四九	四九・四八	一,五三四,一五七	四九・四八	一,五三八,二三一	五一・〇五
…〇・五三	二八九,〇〇一	一〇・〇〇	二六三,一四一	九・二〇	二四八,二〇一	八・〇〇	二一二,二三一	六・六二	一一九,一一四	三・八四	一一〇,三七八	三・六六
…六・四一	一七三,一四〇	六・〇〇	一八五,八四三	六・五〇	一六五,五九〇	五・五四	一九八,一五八	六・〇九	一〇四,九四九	三・三八	九九,八一七	三・三二
…〇・七〇	二三,五二一	〇・八〇	九六,五〇一	三・四〇	三三,五五一	一・〇八	二二,九一二	〇・七〇	一一,五三一	〇・三七	八,六二六	〇・二九
…三・七八	一〇四,七〇三	三・七〇	一〇五,五三九	三・七〇	一〇八,五八六	三・五一	一一四,一九七	三・五一	一一三,七九三	三・六六	一一〇,二八一	三・六六

科目＼區分	大正十四年度 豫算額	大正十四年度 歩合	大正十五年度 豫算額	大正十五年度 歩合	昭和二年度 豫算額	昭和二年度 歩合	昭和三年度 豫算額	昭和三年度 歩合	昭和四年度 豫算額	昭和四年度 歩合
地租附加税	五三七、四七〇	三一、〇一五	五四五、三一六	二九、九〇〇	六八七、七三二	三四、一二九	六九一、一五八	三二、九六五	六九七、三二八	三〇、七八五
所得税附加税	二〇、四六一	一、一八一	三〇、一二〇	一、六五二	二六、一〇〇	一、二九五	三、〇〇〇	一四三	三七、五〇〇	一、六五五
戸税	二六〇、〇〇〇	一五、〇〇三	二六〇、〇〇〇	一四、二五六	二六〇、〇〇〇	一二、九〇三	二六〇、〇〇〇	一二、四〇〇	三三一、八九四	一四、六三九
營業税	四二一、二二一	二四、三〇七	四七一、三三三	二五、八四三	五〇一、二六八	二四、八七五	五六九、三〇三	二七、一五三	五五三、〇八七	二四、四一三
雜種税	四九三、七七七	二八、四九四	五一七、〇一八	二八、三四九	五四〇、〇〇九	二六、七九八	五七三、二二〇	二七、三三九	六四五、六八六	二八、五〇八
計	一、七三二、九二九	一〇〇、〇〇〇	一、八二三、七七六	一〇〇、〇〇〇	二、〇一五、一〇九	一〇〇、〇〇〇	二、〇九六、六八一	一〇〇、〇〇〇	二、二六五、四九五	一〇〇、〇〇〇

國税調定額

科目＼區分	大正十四年度	大正十五年度	昭和二年度	昭和三年度	昭和四年度
地租	一、三六〇、〇八一	一、三七五、二〇九	一、三八六、四三六	一、三九七、〇三四	一、三九八、一三五
砂糖消費税	九三九、五三六	七九八、八八七	六六八、九三二	九七四、二六五	七九六、七〇九
酒精税	六五二、五〇八	八三四、六八一	三四〇、二七四	八六九、三六〇	七六六、一六九
鑛區税	一、五五七	一、五七六	九五二	四八〇	九六〇
織物消費税	二七、〇五四	四、九六九	—	二九	—
所得税	四三四、九三二	四四三、〇三七	八四八、〇二九	四七四、五四二	五九二、六二三
計	三、四一五、六六八	三、四五八、三五九	三、二四四、六二三	三、七一五、七一〇	三、五五四、五九六

備考　昭和七年度は見込額を示す

歳出（當初豫算表に依る）

科目＼區分	大正十四年度 豫算額	大正十四年度 歩合	昭和元年度 豫算額	昭和元年度 歩合	昭和二年度 豫算額	昭和二年度 歩合	昭和三年度 豫算額	昭和三年度 歩合	昭和四年度 豫算額	昭和四年度 歩合
廳費	一九五、〇九〇	八・〇四	一九六・四三五	七・六三	二〇〇、五五五	七・〇〇	一七九、七二八	六・三〇	一九二、七八〇	六・三
郡役所費	一八〇、八七〇	七・四九	一七六・六七一	六・八六	二〇二、〇六四	七・〇〇	一七六、二〇七	六・一〇	一八〇、一四六	五・八
土木費	九三、四一〇	三・八二	一一四、〇七四	四・四三	二一一、三一二	七・〇〇	二一八、四五五	七・六〇	四二七、四一一	三・七九
教育費	一、二五六、八七六	五一・四八	一、三九九、五四二	五四・三五	一、四七二、九八〇	五三・六〇	一、四九三、四九八	五二・一〇	一、五九五、六〇〇	五一・四八
衛生費	三二〇、四二九	一三・一二	二七一、一九二	一〇・五三	二八九、〇〇一	一〇・〇〇	二六三、一四一	九・二〇	二四八、二〇一	八・〇〇
勸業費	一一三、七五二	四・六六	一六五、二四〇	六・四一	一七三、一四〇	六・〇〇	一八五、八四三	六・五〇	一六五、五九〇	五・五四
社會事業費	一九、五二一	〇・八〇	一八、一二一	〇・七〇	二三、五二一	〇、八〇	九六、五〇一	三・四〇	三三、五五一	一・〇八
州税取扱費	九四、一二四	三・八九	九七、四〇八	三・七八	一〇四、七〇三	三・七〇	一〇五、五三九	三・七〇	一〇八、五八六	三・五
其他	一六五、〇四五	六・七六	一三六、二〇四	五・二八	一三九、八一七	四・九〇	一四六、三七四	三・一〇	一四七、八八八	四・七七
計	二、四四〇、九一七	一〇〇・〇〇〇	二、五七四、九〇七	一〇〇・〇〇五	二、八二七、〇九三	一〇〇・〇〇〇	二、八六五、六八六	一〇〇・〇〇	三、〇九九、七五五	一〇〇・〇〇

備考

一　土木費中には營繕土木費、郡役所營繕費を合算せり

一　其他中には神社費、協議會費、財産管理費、諸支出金豫備費、補助及寄附、財産目録更新

一　本表は一般會計に屬せる豫算額を各款に就き其の目的に依り大別せり

一　衛生費中には屠場管理費を合算せり

一　州税取扱費中には河川工事費負擔金取扱費を合算せり

税

…度 合	九〇〇	八五二	二五六	八四三	二四九	〇〇〇
昭和二年度 豫算額	六八七,七三二	二六,一〇〇	二六〇,〇〇〇	五〇一,二六八	五四〇,〇〇九	二,〇一五,一〇九
昭和二年度 歩合	三四,一二九	一,二九五	一二,九〇三	二四,八七五	二六,七九八	一〇〇,〇〇〇
昭和三年度 豫算額	六九一,一五八	三,〇〇〇	二六〇,〇〇〇	五六九,三〇三	五七三,二二〇	二,〇九六,六八一
昭和三年度 歩合	三二,九六五	一四三	一二,四〇〇	二七,一五三	二七,三三九	一〇〇,〇〇〇
昭和四年度 豫算額	六九七,三二八	三七,五〇〇	三三一,八九四	五五三,〇八七	六四五,六八六	二,二六五,四九五
昭和四年度 歩合	三〇,七八五	一,六五五	一四,六三九	二四,四一三	二八,五〇八	一〇〇,〇〇〇
昭和五年度 豫算額	七〇五,八三〇	四二,〇〇〇	三三八,〇〇〇	五八一,八二一	六九三,七八六	二,三六二,四三七
昭和五年度 歩合	一九,八七九	一,七七八	一四,三三六	二四,六三八	二九,三六九	一〇〇,〇〇〇
昭和六年度 豫算額	六九三,八九八	二一,〇〇〇	三三八,〇〇〇	四九〇,九四五	六八三,七六六	二,二二七,六〇九
昭和六年度 歩合	三一,一四九	九四三	一五,一七三	二二,〇三九	三〇,六九六	一〇〇,〇〇〇
昭和七年度 豫算額	六九八,九六〇	二三,二〇〇	三三八,〇〇〇	四五七,五六六	六六〇,二六四	二,一七七,九九〇
昭和七年度 歩合	三二,〇九一	一,〇六五	一五,五一八	二一,〇〇八	三〇,三一八	一〇〇,〇〇〇

額

…度	一〇九	八八七	六八一	五七六	九六九	〇三七	三五九
昭和二年度	一,三八六,四三六	六六八,九三二	三四〇,二七四	九五二	—	八四八,〇二九	三,二四四,六二三
昭和三年度	一,三九七,〇三四	九七四,二六五	八六九,三六〇	四八〇	二九	四七四,五四二	三,七一五,七一〇
昭和四年度	一,三九八,一三五	七九六,七〇九	七六六,一六九	九六〇	—	五九二,六二三	三,五五四,五九六
昭和五年度	一,四〇〇,一九〇	七四八,二七九	九八〇,四三二	四八〇	—	五九四,五四九	三,七二三,九三〇
昭和六年度	一,四〇〇,二七三	七七一,八三七	九四四,二二六	四八〇	—	五一八,〇九一	三,六三四,九〇七
昭和七年度	一,四〇二,二六八	六八六,七一二	五九四,七七七	四八〇	—	三二九,七七九	三,〇一四,〇一六

出　（當初豫算表に依る）

…度 合	…六三	…八六	…四三	…三五	…五三	…四一	…七〇	…七八	…二八
…度 合 (合計)	〇〇五								
昭和二年度 豫算額	二〇〇,五五五	二〇二,〇六四	二三一,三一二	一,四七二,九八〇	二八九,〇〇一	一七三,一四〇	二三,五二一	一〇四,七〇三	一三九,八一七
昭和二年度 豫算額 (合計)	二,八二七,〇九三								
昭和二年度 歩合	七・〇〇	七・〇〇	七・〇〇	五三・六〇	一〇・〇〇	六・〇〇	〇,八〇	三・七〇	四・九〇
昭和二年度 歩合 (合計)	一〇〇・〇〇〇								
昭和三年度 豫算額	一七九,七二八	一七六,二〇七	二一八,四五五	一,四九三,四九八	二六三,一四一	一八五,八四三	九六,五〇一	一〇五,五三九	一四六,三七四
昭和三年度 豫算額 (合計)	二,八六五,六八六								
昭和三年度 歩合	六・三〇	六・一〇	七・六〇	五二・一〇	九・二〇	六・五〇	三・四〇	三・七〇	三・一〇
昭和三年度 歩合 (合計)	一〇〇・〇〇								
昭和四年度 豫算額	一九二,七八〇	一八〇,一四六	四二七,四一一	一,五九五,六〇〇	二四八,二〇一	一六五,五九〇	三三,五五一	一〇八,五八六	一四七,八八八
昭和四年度 豫算額 (合計)	三,〇九九,七五五								
昭和四年度 歩合	六・二三	五・八一	三・七九	五一・四八	八・〇〇	五・五四	一・〇八	三・五一	四・七七
昭和四年度 歩合 (合計)	一〇〇・〇〇								
昭和五年度 豫算額	一九六,八四九	一七四,三三八	五七一・八三六	一,六二一,四四九	二一二,二三一	一九八,一五八	二二,九一二	一一四,一九七	一四一,五〇〇
昭和五年度 豫算額 (合計)	三,二五三,四七〇								
昭和五年度 歩合	六・〇五	五・三六	一七,五八	四九・四八	六・六二	六・〇九	〇・七〇	三・五一	四・三五
昭和五年度 歩合 (合計)	一〇〇・〇〇								
昭和六年度 豫算額	一九四,六〇〇	一〇五,六八五	五七九,八九四	一,五三四,一五七	一一九,一一四	一〇四,九四九	一一,五三一	一一三,七九三	三三七,二三三
昭和六年度 豫算額 (合計)	三,一〇〇,九五六								
昭和六年度 歩合	六・二八	三・四一	一八・七一	四九・四八	三・八四	三・三八	〇・三七	三・六六	一〇・八七
昭和六年度 歩合 (合計)	一〇〇・〇〇								
昭和七年度 豫算額	一八八,九七九	一一〇,九九七	三六六,五三四	一,五三八,二三一	一一〇,三七八	九九,八一七	八,六二六	一一〇,二八一	四七九,一八八
昭和七年度 豫算額 (合計)	三,〇一三,〇三一								
昭和七年度 歩合	六・二七	三・六八	一二・一六	五一・〇五	三・六六	三・三二	〇・二九	三・六六	一五・九一
昭和七年度 歩合 (合計)	一〇〇・〇〇								

營繕費を合算せり
管理費諸支出金豫備費補助及寄附財産目錄更新を合算せり
を各款に就き其の目的に依り大別せり
せり
擔金取扱費を合算せり

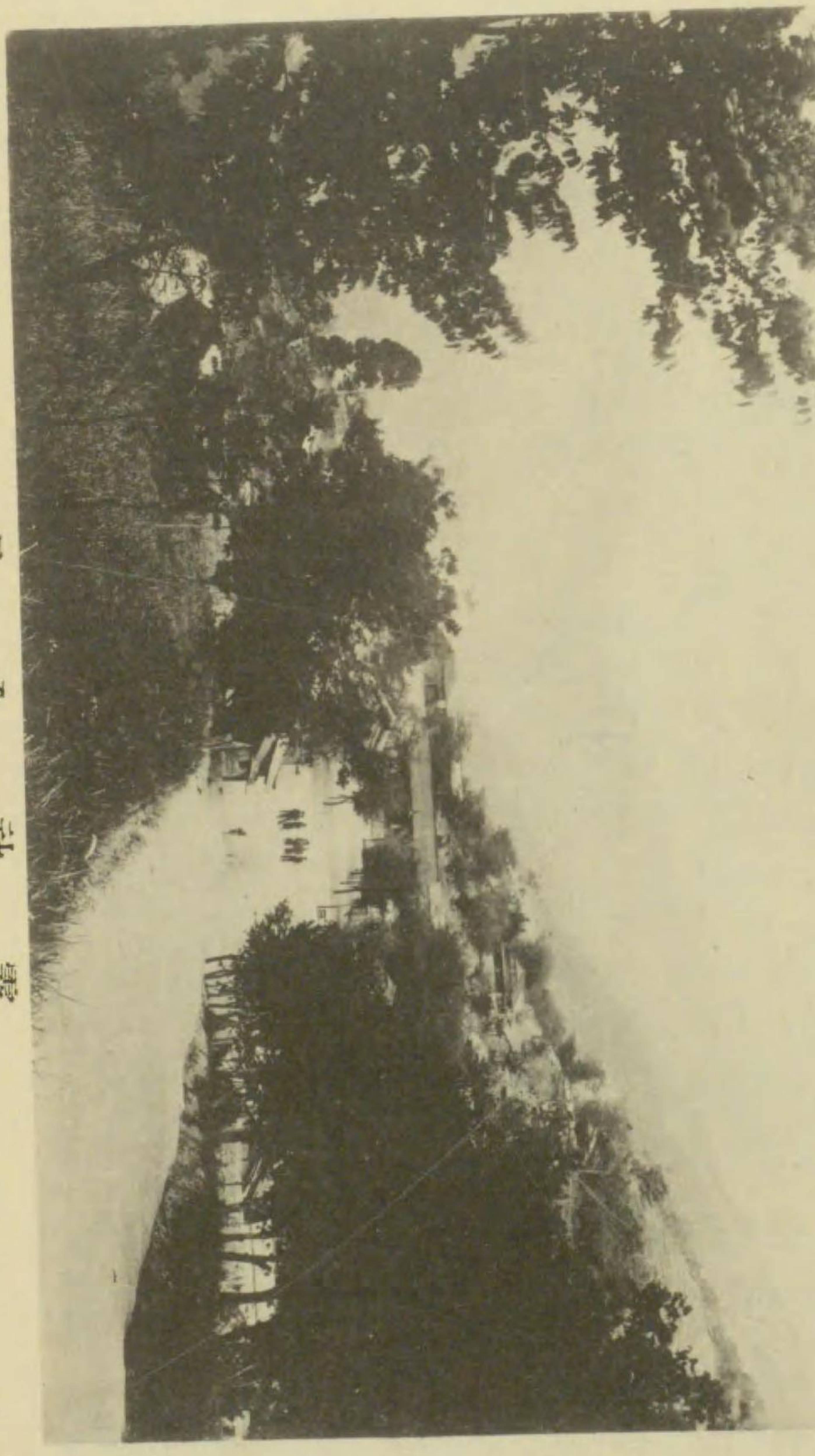
附録

視察案内

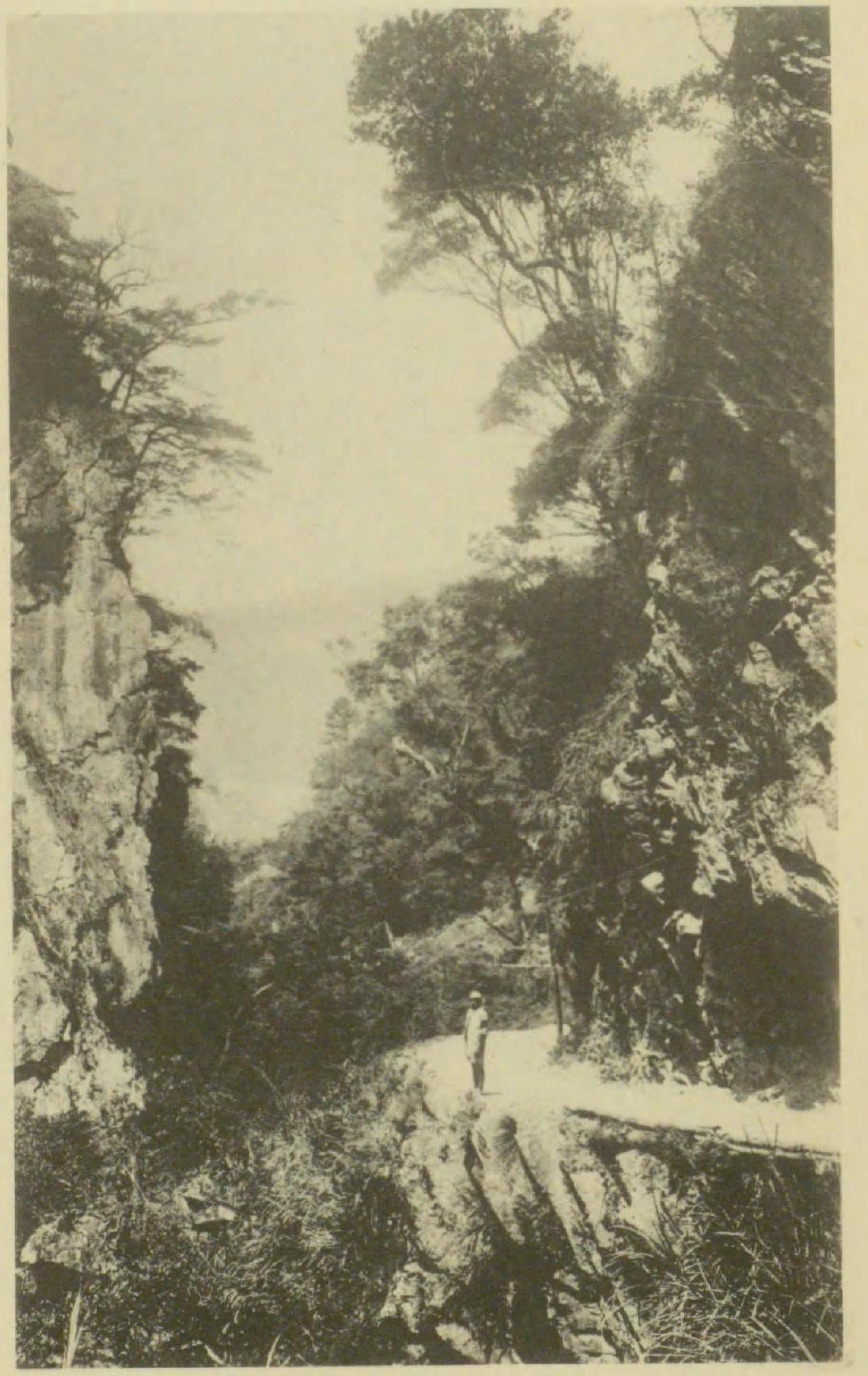
新高山 本邦第一の高山にして海拔三千九百五十米新高郡東南方臺南、高雄兩州の境に聳ゆ、一度之が頂上を窮むれば群峰脚下に俯伏し一眸千里、眺望雄大快濶を極め登山する者近來頗る多し。其の旅程は第一日臺中發二水驛にて集々線に乘換へ集々を經て水裡坑驛に下車し程なく山路に入り內茅埔を經て東埔に到り宿泊す、此の間東埔の手前二粁迄臺車の便あり(陸路四十二粁)此の地に溫泉あり旅情を慰むるに足る、第二日東埔發八通關着泊(路程十八粁)、第三日拂曉八通關發遲くも九時頂上に達す(八通關より主山頂上迄九粁)、歸路は

多く登山の徑路に依る。尙登山路は蕃地にて宿泊所は特別の施設なきも警察官吏駐在所に於て便宜を圖り三十人位の團體は宿泊し得るも食料五人分以上は特に送付を要するを以て登山者は豫め新高郡役所に旅程を申出で且入蕃許可を受くるを便とす。

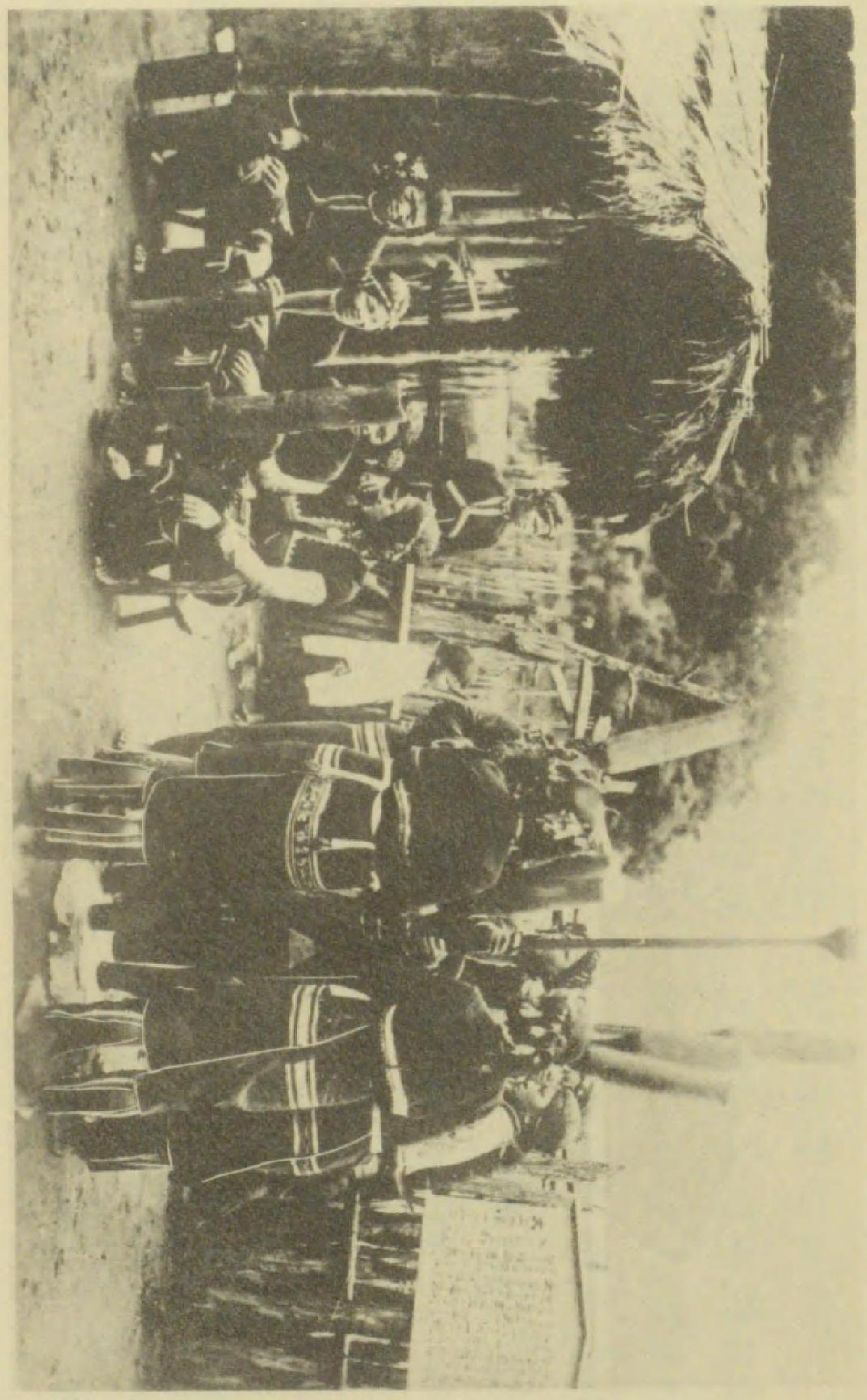
霧社 能高郡蕃地に在り標高一粁四八九、盛夏の候と雖八十度を昇ること稀にして避暑に適し又櫻樹を以て有名なり。縱貫線二水驛に於て集々線に移乘し途中埔里街迄到るに二路あり卽ち一は鐵道終點外車埕より臺灣製糖株式會社の軌道により蜿蜒三十四粁餘五城、魚池を經て至るものと一は水裡坑驛に下車し自動車を驅りて山腹を快走し水社、魚池を經て至る新道(約三十八粁)とにして時間的經濟上近來本道に據るもの漸次增加しつゝあり、埔里街より更に臺車にて峽間を縫ひ往くこと十八粁眉溪に至りて下車し之より坂路六粁に



霧社全景



霧社人止の關



日月潭湖畔の化蕃杵搗

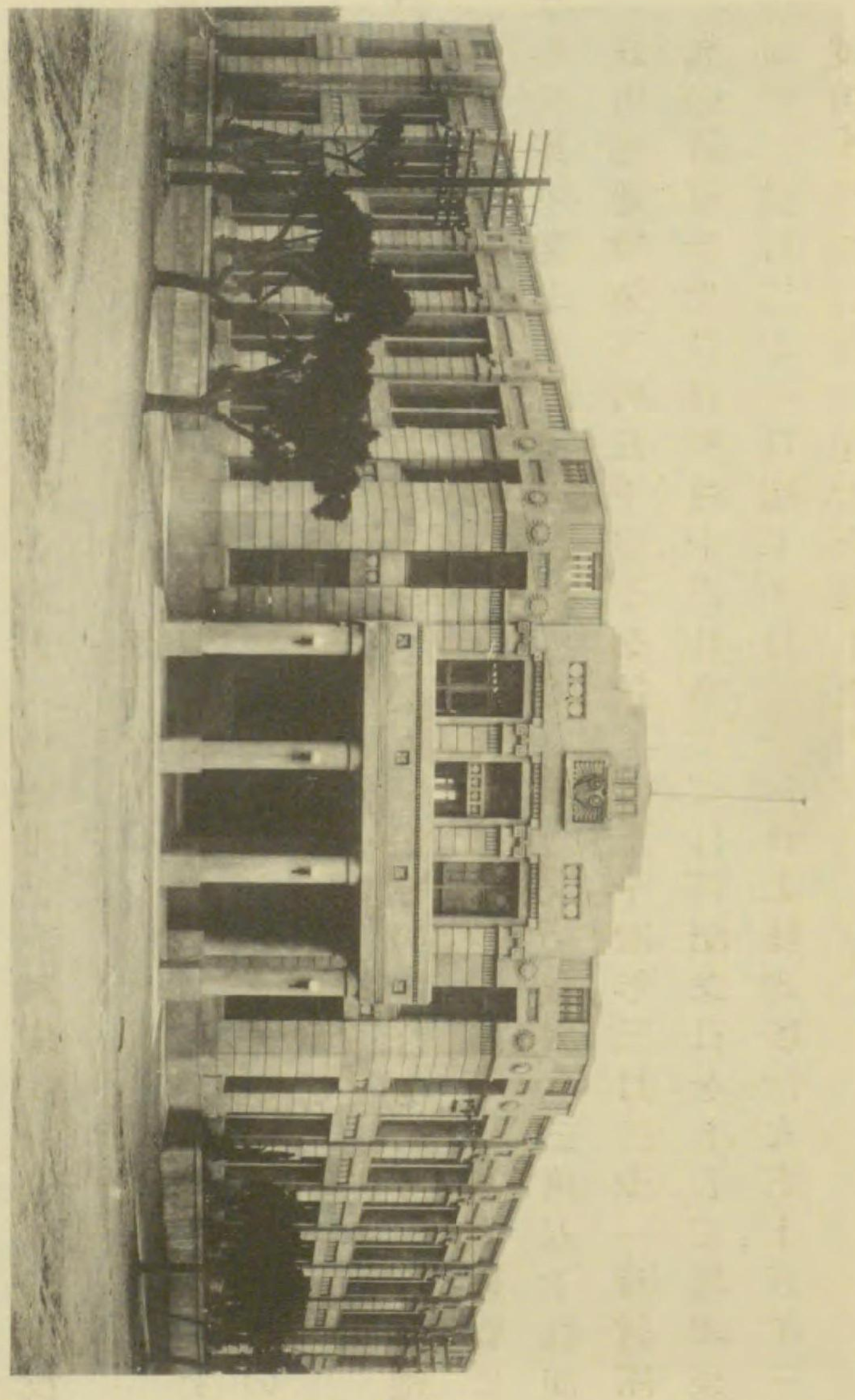
して霧社に達す、警察課分室、郵便局、小學校、蕃童公學校及旅館ありて視察、遊覽者毎年非常に多し。尙東方四粁の地に櫻溫泉あり。

日月潭 新高郡魚池庄水社大山の山麓に在り風光の明眉と水力電氣工事とに依りて知らる、往くに水裡坑より自動車によるもの、軌道五城驛に下車し坂路徒歩又は轎によるもの、魚池道より入るものゝ三路あり。旅館涵碧樓は景勝の地を占め湖水を一眸に收む、月明の夜湖上に小舟を浮べ化蕃が奏ずる杵唄を聽く亦一興なり。

臺中市內

臺中州廳 市內幸町に在り、大正二年二月臺中廳時代に起工し大正十三年二月完成す、總工費約三十九萬四千圓を要せり。

臺中市役所 市內幸町に在り、明治四十二年の建築にして元公共埤



行啓記念館

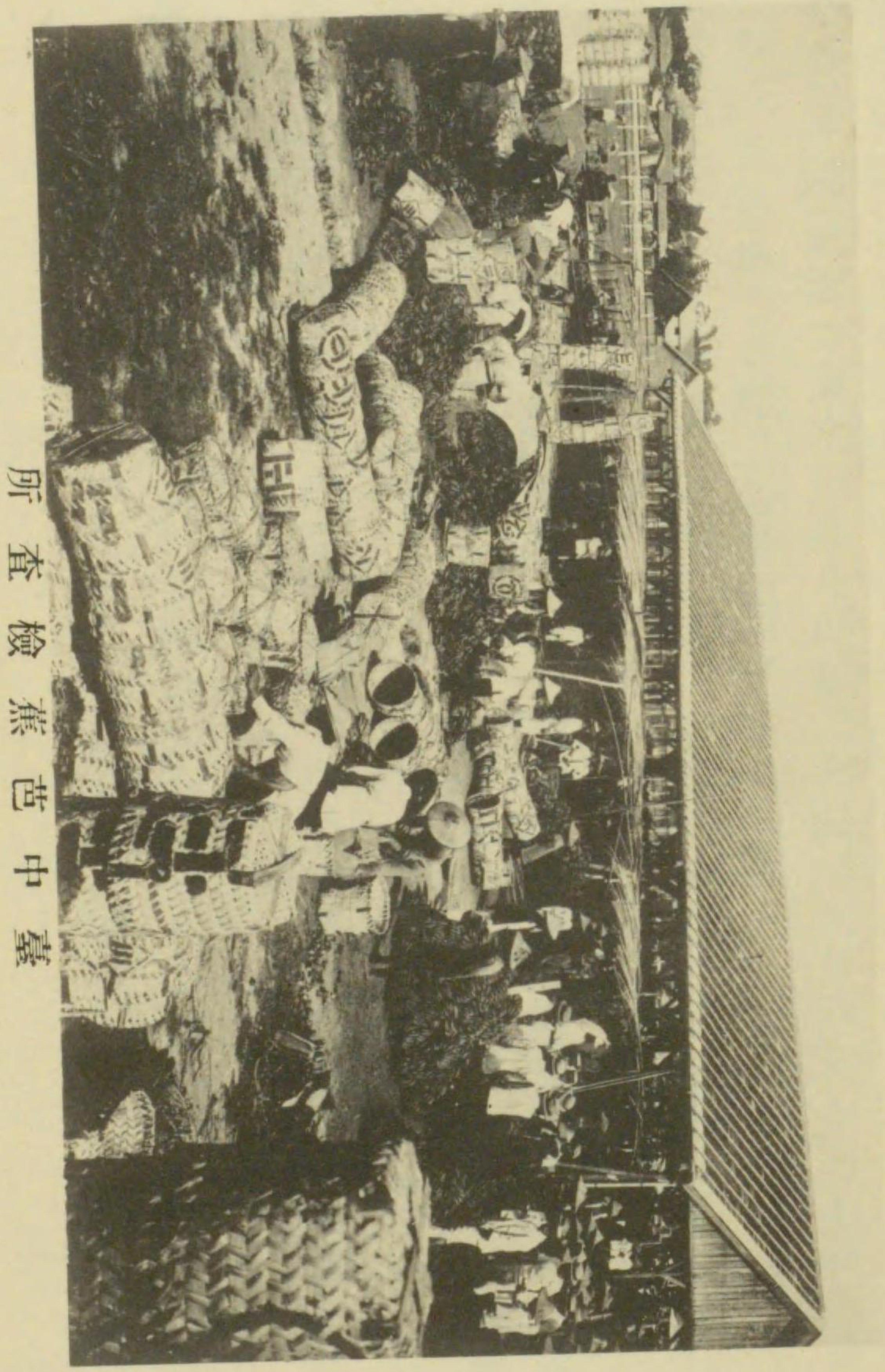
圳聯合會事務所なりしを大正九年九月地方制度改正と共に市役所に當てたり。

臺中州立農事試驗場 市內後壠子に在り、元臺中廳農會の設置に係り大正十三年四月州立と爲す。因に昭和六年七月臺中市新高町の舊位置より現位置に移轉せしものなり。

行啓記念館 大正十二年四月　皇太子殿下の行啓を記念する爲州下の教育、產業に關する參考品及物產を蒐集陳列して公衆の觀覽に供し且其の發達を圖る目的を以て州下官民の寄附金三萬五千餘圓と臺中州補助金三萬五千圓とを以て大正十四年三月三十一日財團設立の許可を受け同四月十六日第二回行啓記念日を卜して地鎭祭を執行し同月二十一日起工十月三十一日上棟式擧行大正十五年三月竣功す、建坪二百三坪七合餘工費六萬圓なり。

水源地運動場附近

臺中農業倉庫



臺中芭蕉檢查所

臺中神社 臺中公園内に在り(第二章第二節參照)

臺中公園 市街の東北に在り面積二萬四千五百餘坪を有し園内風致に富む(第二章第二節參照)

臺中水源地 市街の東北端新高町に在り地域四萬六千餘坪を有し先帝銀婚式祝奉記念遊園地を造成す。

臺中農業倉庫 市内旱溪に在り臺中州農會の經營にして籾倉庫七十六坪、玄米倉庫百四十三坪を有し大正十一年十二月業務を開始せり。

臺中芭蕉檢查所 市内曙町に在り臺中州青果同業組合の經營に係る。

臺中醫院 市内村上町に在り明治三十一年六月設置、現廳舍は大正四年七月竣功したるものにして、工費約十三萬圓を要し各般の施設完

備す。

臺中分屯大隊　市内干城町に在り明治四十年の竣功にして模範的永久兵營なり、尙衞戍分院、憲兵分遣隊等相隣接す。

臺中測候所　市内大正町に在り明治二十九年の創設に係る。

臺中師範學校　市内梅ヶ枝町に在り大正十二年四月臺中公學校内に開校大正十三年四月現在の校舍新築と共に移轉せり。

臺中第一中學校　市内新高町に在り大正四年五月開校本島公立中學校の嚆矢にして建築費二十萬圓餘を要せり。

臺中第二中學校　市内頂橋子頭に在り大正十一年四月臺中第一小學校内に開校大正十四年四月現在の校舍新築と共に移轉せり。

臺中郵便局　市内寶町に在り明治二十九年三月の開設に係り大正十年八月一等局となる。

臺中地方法院　市内明治町に在り明治三十五年一月の建築に係り當時は臺北地方法院出張所なりしも明治四十二年十月獨立せり。

臺中專賣支局　市内老松町に在り大正十一年の創設にして規模廣大なり。

臺中刑務所　市内利國町に在り明治三十六年の建築に係り其の後累次改善され完備せり。

臺中商業學校　市街の東北端新高町に在り大正八年四月の設立なり。

臺中高等女學校　市内明治町に在り大正八年四月臺中小學校内に開校し大正十二年七月現校舍新築成り移轉せり。

'33. 7. 10

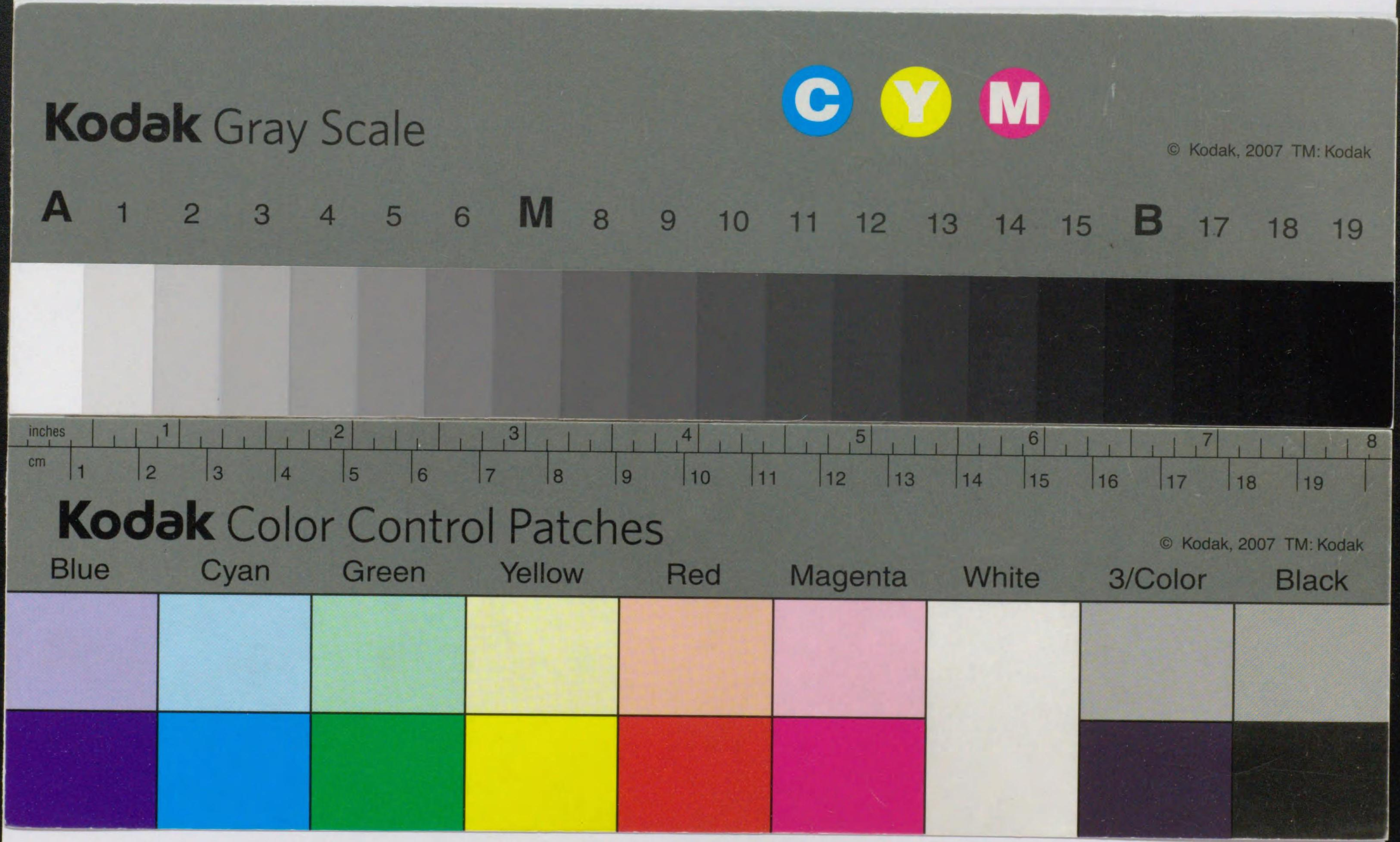
池田宏氏
寄贈本

昭和七年十二月二十日印刷
昭和七年十二月二十三日發行

臺中州

臺中市綠川町二丁目九番地
印刷人　高須佐助

臺中市綠川町二丁目九番地
印刷所　高須印刷所


Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19
inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black